

■コメント

1 インフルエンザ

今シーズンのインフルエンザ様疾患による学級閉鎖等の累計は、既に443件報告されており、2010/11シーズン以降では、2015/16シーズンの414件を上回って最多となっています。

また、例年、冬休みが終わり学校が始まると流行が拡大する傾向があり、注意が必要です。手洗い、咳エチケット、適度な湿度の保持、換気などの感染予防対策を徹底しましょう。

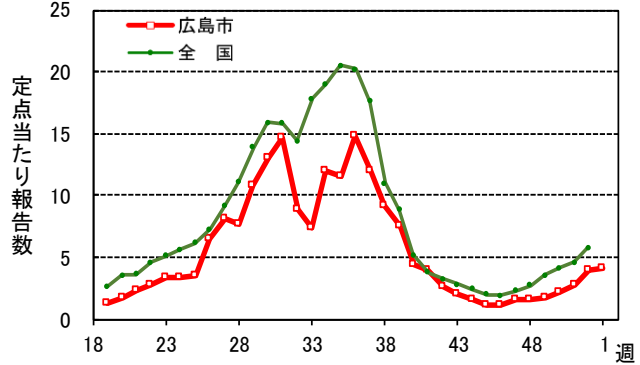
2 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)

増加傾向が続いています。手洗い、医療機関や混雑した電車・バスでのマスク着用など、基本的な感染予防対策に取り組みましょう。また、寒くなると窓を閉め切った屋内で過ごすことが増えるので、「換気の悪い密閉空間」にならないよう、こまめに換気をしましょう。

3 感染性胃腸炎

冬季はノロウイルスなどによる感染性胃腸炎が増加します。感染性胃腸炎を起こすウイルスは、感染者の便や吐物に多く含まれており、飛沫や人の手などを介して経口感染します。保育園、学校、福祉施設など集団生活の場では、感染が広がりやすく、特に注意が必要です。こまめな手洗い、便・吐物の適切な処理など感染予防対策を徹底しましょう。

新型コロナウイルス感染症の流行状況 (2023~2024年)



■定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均過去5年間(注)	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均過去5年間	発生記号	急増減	増減	微増減	横ばい
												前週と比較しておおむね1:2以上の増減	前週と比較しておおむね1:1.5~2の増減	前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減	ほとんど増減なし
インフル	インフルエンザ	335	9.31	3.98		小児科	ヘルパンギーナ	-	-	0.12					
	新型コロナ(COVID-19)	148	4.11				流行性耳下腺炎	-	-	0.04					
小児科	RSウイルス感染症	1	0.04	0.16		眼科	急性出血性結膜炎	1	0.13	0.03					
	咽頭結膜熱	45	1.96	0.13			流行性角結膜炎	14	1.75	0.28					
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	27	1.17	0.50		基幹	細菌性髄膜炎	-	-	-					
	感染性胃腸炎	60	2.61	3.99			無菌性髄膜炎	-	-	-					
	水痘	7	0.30	0.18			マイコプラズマ肺炎	1	0.14	0.06					
	手足口病	3	0.13	0.37			クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-					
	伝染性紅斑	-	-	0.04			感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	0.06					
	突発性発しん	1	0.04	0.11											

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ/COVID-19定点数(小児科定点を含む)	36
小児科定点数	23
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注) 過去5年間の同時期平均(定点当たり)

今週(第1週)は、年末年始の休診の影響で、報告数が少なくなっている可能性があり、前週(第52週)と適正な比較ができないことから、発生記号は表示していません。

■全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
5	急性脳炎	1	1	10歳代

